

■ 白鷹町史談会総会が開かれます

平成 29 年 6 月 3 日 (土) に、白鷹町史談会の総会が開かれますので御案内いたします。

- 1 期日 平成 29 年 6 月 3 日 (土)
 - 2 時間 13:30～
 - 3 会場 白鷹町中央公民館
 - 4 内容
 - (総会)
 - 議事
 - (1) 平成 28 年度事業報告、並びに収支決算報告
 - (2) 平成 29 年度事業計画 (案)、並びに収支予算 (案)
 - (3) その他
 - (研修会)
 - (1) 「白鷹町の紅花の現在と未来」
会員 今野正明氏
 - (2) 「南方熊楠を語る」
会員 江口儀雄氏
- (懇親会) 16:15 開宴予定
会員会費 1,000 円

今回の研修会の発表については、江戸時代の初め頃から当地の特産物とされる紅花について、今野正明さんがお話しします。紅花は、江戸時代初めの『邑鏡 (むらかがみ)』(現在の国勢調査記録に当たる記録で、上杉以前の蒲生時代の記録を基にしたものという。村々の戸数や男女の人口、産物などが記載されているもの) に、白鷹町の半分の村々で栽培されていたもののようです。また、広野の青木家に伝わる文書には、寛永 19 (1642) 年に荒砥御役屋が紅花の干し花を 100 匁 (約 375 グラム) 銀 1 匁 (現在では 1,500 円から 2,000 円ぐらい) で 400 貫 (1,500 キログラム) 近く買ったという記録があります。その当時は本当に大

産地であったことがわかります。その紅花の栽培が白鷹町では途絶えていたのを復活させた今野さんが、現状と未来の姿を語ってくださいます。

江口さんのお話は南方熊楠 (みなかた くまぐす 1867 年 (慶応 3 年) 5 月 18 日生、1941 年 (昭和 16 年) 12 月 29 日没という博物学者、生物学者、民俗学者のお話です。今年には南方の生誕 150 年にあたるそうです。この人はたいへんおもしろい経歴を持つ人で、和歌山中学を卒業し大学予備門 (現在の東京大学) に入学したものの、1886 年 (明治 19 年) に中間試験で落第したため予備門を中退し、和歌山へ帰郷後に渡米し、ほとんど独学で植物学を学び、1893 年 (明治 26 年) には科学雑誌『ネイチャー』に初めて論文「極東の星座」を寄稿したり、その後、英国に渡って大英博物館に勤務し、そこでもなぜか出入り禁止となって、日本に戻ってきます。その後は、粘菌の研究や柳田国男との交流を通して民俗学の研究、さらには神社合祀反対運動を起こして、田辺湾神島 (かしま) の森の保護に努めたりしています。さらには、1929 年 (昭和 4 年) に紀南行幸の昭和天皇に田辺湾神島沖の戦艦長門艦上で進講して粘菌標本を天皇に献上したということもあります。江口さんが何を語ってくださるのか楽しみなことです。

総会後は懇親会になります。みなさんこぞって参加ください。

■ 深山神社のこと

守谷英一



私の住んでいる荒砥仲町には、深山 (しんざん) 神社があって、毎年 5 月の初めに

祭礼が行われます。

所在地は、稲荷が丘の南、町立病院の北側の通称「おしんざん」と呼ばれる丘の上にあります。この丘には「石那田（いしなだ）遺跡」があって、縄文土器の破片などが畑から出てきます。子どもの頃には破片を拾って遊んでいました。

昨年、祭礼のときに臨時で堂守をすることとなり、どんな神社か調べてみました。

『荒砥町史』には次のように記述されています。

石那田字深山貳百四拾番地に鎮座する神社で、大山津美命を祀り、その創立年代が詳かでないが最古の棟札に『干時承応元年 堀江藤原真定白（後略）』とあるから、慶安以前に創立された古社であることが知れる。境内参拾坪本殿一間四面拝殿梁間壱間半桁間三間、信徒貳拾三戸である。明治五年に村社に列し、本殿の什器としては神鏡（無銘白銀製径三寸丸形石那田中寄進）壱面、鈴（真鍮製無銘径二寸中町中寄進）壱個がある。後大正六年五月十三日郷社八幡神社に合祀されたが、神霊の遷座だけで、中町の鎮守として毎年八朔に祭礼を挙行している（長岡規矩雄編 1954 『荒砥町史』 荒砥町史編纂委員会 387頁）

これによると、創立年代は不詳ですが、残された最古の棟札には、再建が承応元（1652）年という記録があるので、江戸時代初期には創立されていたのは確かであることがわかります。また、祭神が「大山津美命」ですので、いわゆる「山の神」であることもわかります。

しかも、かつては「村社」という社格ですから、地域の人々にとっては大事な社であったようです。

深山神社のお祭りは、いまは5月の第2日曜日あたりにおこなわれていますが、もともとは「八朔の日（旧暦の8月1日）」で、現在の9月初め頃におこなわれていたようです。

いまのお祭りは、仲町第一町内から第四町内までの仲町区全体のお祭りとして、仲町区区長さんが中心になっておこなわれて

います。

現在の社は昭和 60 年に建て替えられています。もとはもう少し大きな社だったかも知れません。

地域の小さな社のことはだんだんわからなくなっています。みなさんもお近くの社について調べてみるのはいかがでしょうか。

■ お知らせ

☆ 観世流英会の「水無月祓」の謡奉納が行われます。

- 1 期日 平成 29 年 6 月 25 日（日）
- 2 時間 午後 2 時から
- 3 場所 鮎貝八幡宮内陣
- 4 演目 「大江山」

詳細については、渋谷敏己副会長へお尋ねください。鑑賞料は無料です。

☆ 置賜民俗学会の研究集会が行われます。

「講」の現在

平成29年7月1日(土)14:00～17:00
会場:伝国の社2F 第1第2会議室

14:00 開会
14:05 開演 テーマ 「講」の現在
講師 江口 儀雄 湯殿山・塩田行屋の「出来町八日講」について
14:20 ショートトーク
14:30 質疑応答
14:55 閉会

研究集会資料代:500円
懇親会:5,000円(事前申込)

日時：7月1日(土) 14時～17時

場所：伝国の社

資料代：500円

会員の江口儀雄さんが「出来町八日講（湯殿山・塩田行屋）」ということで報告していただきます。会員以外の方も参加可能です。（問い合わせは守谷へ）